

会 議 録

会議の名称	令和元年度 飯塚市環境審議会(第3回)
開催日時	令和2年3月10日(火)10:30~11:10
開催場所	飯塚市役所 本庁 6階 教育委員会会議室
出席委員	石橋委員、依田委員、堀委員、桑原委員、帆足委員、出嶋委員、今津委員、梅野委員、黒木委員、西谷委員、広田委員、岡松委員
欠席委員	伊藤委員、吉柳委員、梅沢委員
事務局職員	井上課長、福澤課長補佐、相川係長、久米
会議内容	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 第3次飯塚市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)(案)について事務局から議題(1)について説明後、全体を通して質問・回答</p> <p>○質問 - 回答</p> <p>①温室効果ガスを削減する取組について記載されていますが、それによって飯塚市の施設で効果があった事例を具体的に示した方が良いと思います。</p> <p>→記載を追加します。</p> <p>(再質問)</p> <p>・具体的にどの施設でどういうことをして効果があったのか。</p> <p>→第2次計画期間の中で照明をLEDに替えたところ変更前後の年度で電気使用量が減っている施設があるため、どのような事例を選別して記載することを検討している。</p> <p>②計画期間を令和2年から令和12年度迄の11年間とした理由について</p> <p>→環境省が平成29年3月に発行した地球温暖化対策実行計画(事務事業編)の策定・実施マニュアルにおいて目標年度は原則的に令和12年度にするとの記載があるため、計画期間を令和12年度までの11年間としている。</p> <p>(再質問・再意見なし)</p> <p>③「地球温暖化対策計画」においては、温室効果ガスを「2030年度において2013年度比26%減の水準にする」とされる年号は西暦で表記してあるが、本市の計画では平成、令和の年度で示されている。西暦で統一した方が分かりやすいのではないかと。</p> <p>→国の「地球温暖化対策計画」に記載されている文言はそのまま記載している。『市の公文書・刊行物等の「年」の表記に係る取扱要領』において、元号記号が原則とされているため、当該(案)については元号</p>

で記載している。発行までに取扱要領が変わるようであれば、西暦記載への変更を検討する。

(再質問・再意見なし)

④2030年度(令和12年度)目標である-40%削減の達成に向けた具体的な削減目標値の内訳を示すことはできないか。例えば、温室効果ガス削減に向けた取組内容毎の削減目標値等。

→事務事業編の対象としている施設において実施している事業は、それぞれその内容や対象等が異なることから、各施設における排出総量も取組による削減量も異なるものと考えている。そのため、(案)に記載している取組内容毎に具体的な削減目標の内訳を記載することは困難である。

(再質問・意見)

・削減目標の-40%は厳しい目標であると認識している。各取組の見通しがあればわかりやすくなると思われるため、記載することが望ましい。

→実行計画とは別の部分で細やかに職員に対する推進ができるようにすることを検討している。

⇒浄水場等の継続的に稼働している施設について、現状以上の削減を行うことは困難である。そのため、職員による取組において、施設の削減不可能部分を補う取り組みを行う必要があると考える。

(再質問・意見2)

・第2次計画期間中は施設の廃止等により大幅に温室効果ガスの削減ができていく都市がある。今後、施設の廃止等がないようであれば、人的な物だけで温室効果ガスを削減していくことが必要になると解するが、そういった点についてどう考えているのか。

→職員の努力を今後とも継続していくが、効果が限られているところである。そのため、施設の増改築が決定しているところについては、省エネ設備の設置を積極的に推進するとともに、継続して使用していく施設についてはLED照明の有無等を調査し、同照明の設置を推進していく等して、温室効果ガス排出量の削減に取り組む。

(再質問・意見3)

・職員が各取組を行うことで、削減できる温室効果ガス排出量が何%になるか等、一つのモデルになるようなケースはどこかにあるか。

→実行計画には示していない。しかし、実行計画とは別に各職員の取組状況を発信していくことを予定しているので、その中に盛り込むことを検討する。

⑤(案)の内容精査は誰か。また、各課の目標値を設定し、結果が数字で表されるようにしないと評価できないと考える。そのほか、実施結果の分析を公表する予定はあるか。

→課内で精査しており、現在、市民環境部長の決裁を得た状況である。各課の目標値については、機構改革により所管事務が変更になること

もあるため、設定は考えていません。

⑥原油換算目標値が40%でない理由は何か。

→原油換算エネルギー量については、削減目標は設定していません。これは、各使用燃料から原油換算エネルギー量と温室効果ガス総排出量を算定する際の係数が異なり、一概に現有換算エネルギー量の削減率と温室効果ガス総排出量の削減率が同一とはいえないためです。原油換算エネルギー量は、市のエネルギー使用に伴う純粋な取組状況を把握するために推移を管理するものです。

⑦各施策で温室効果ガス排出量が40%削減できる根拠はあるか。

→温室効果ガス排出量の削減につながる取組であると考えています。また、(案)に記載している取組以外にも温室効果ガス削減につながると考えられる取組については、積極的に情報提供しながら取り組んでいきたいと考えています。

(再質問・意見)

・温室効果ガス排出量の8割を占めているのは、電気と石炭コークスの使用量である。石炭コークスに関する計画はないのか。また、温室効果ガス排出量の削減のため緑化面積を広げる緑化条例の制定を検討してほしい。

→石炭コークスの使用量は市域のごみ排出量に関係するため、ごみ排出量の減少への啓発を進めていきます。また、緑化に関しては、市が事務事業をする上で排出される温室効果ガスを減らしていくための計画である第3次地球温暖化対策実行計画(事務事業編)(案)ではなく、市域で検討していく環境基本計画での事案と解しています。

⑧図1-3「旧計画における温室効果ガス総排出量の推移」の旧計画目標値を示す赤い線の位置が正しくないと思います。

→修正します。

(再質問・意見なし)

⑨石炭コークスを使用しているクリーンセンターについて、平成31年度以降に対象外となる施設とあるが。

→クリーンセンターは一部事務組合「ふくおか県央環境広域施設組合」に移管され、そこが一事業所として報告することとなるため、市の事務事業編からは外れることとなります。

3 閉会

会議資料	資料1：第3次飯塚市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)(案)
公開・非公開の別	1 公開 2 一部公開 3 非公開 (傍聴者0人)
その他	

